

モデルプログラム 展開例3

プログラム名

地域有志団体と高校生による

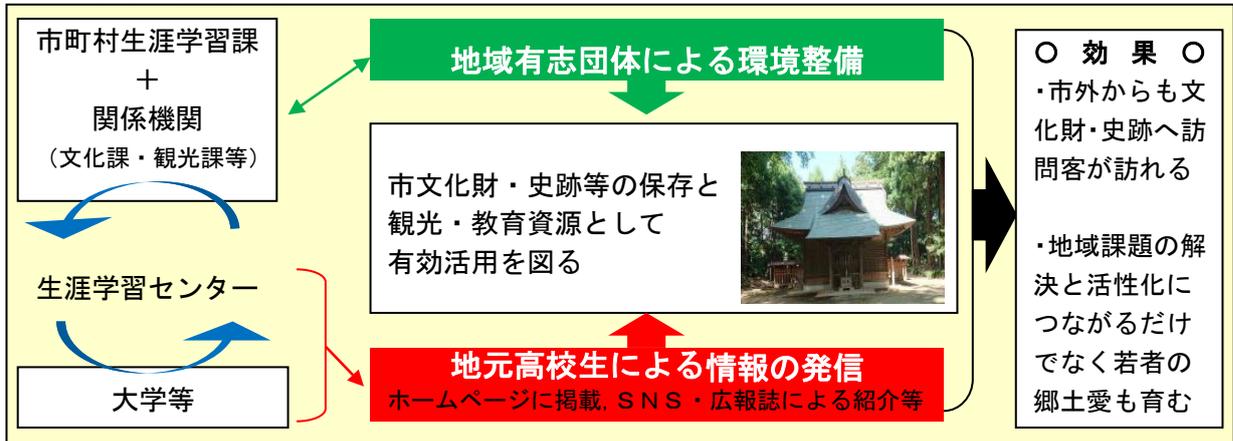
文化財・史跡等の保存と有効活用

～地域に関する諸団体の交流をとおして～

1 ねらい

地域の有志団体をはじめ地域諸団体の活動を支援し、各関係団体間の交流を積極的に進めることで、文化財・史跡等の地域資源の有効活用につなげ、地域の活性化を図る。

2 プログラム開設に向けて



○市町村の文化財担当者の役割

- ・地域内における有効活用が図れる史跡や有用文化財についてリストアップする。
- ・各地区の担当者と史跡や有用文化財の活用について連携を図る。

○市町村の生涯学習担当者の役割

- ・文化財課担当者との連携を図り、史跡・文化財等の価値を広報する。
- ・史跡・文化財等の所在する当該域で活動しているボランティア団体等の諸団体と連携を図り、機会をみて整備保存活動について話を進めていく。
- ・すでに、整備保存活動を行っている団体へは、支援を継続していく。
- ・文化財担当者と連携をとり、広報活動や研修活動を行う。

○生涯学習センターとしての関り

- ・各市町村の生涯学習課からの相談を受け、必要な時は専門家を紹介するなど、支援を行う。
- ・場合によっては、諸団体同士のコーディネーターや研修会を行う。

3 期待される効果

- (1) 保存された文化財・史跡等は、観光資源や教育資源（学習教材）となる。
- (2) プログラムに関わる人・団体を増やしていくことで、史跡・文化財、ひいては地域への理解が深まり、郷土愛へつながる。
- (3) 史跡等の整備保存活動は、ボランティア精神の高揚にもつながる。
- (4) 史跡等の整備保存活動は住環境の保全活動につながり、地域のリーダー育成と地域の活性化につながる。

4 モデル事業（潮来市「Once Upon a Time in 潮来」の様子



地域住民によって整備された史跡【御札神社（島崎城本丸跡）と鹿見塚古墳】